

## 平成 28 年度 第 2 回大府市環境審議会 議事概要

日 時：平成 29 年 3 月 14 日（火）午前 10 時 00 分～  
場 所：大府市役所 206・207 会議室

### <委員出席者> 13名

千頭 聡（日本福祉大学国際福祉開発学部教授）、西村和子（大府市教育委員会教育委員）、小野木一夫（愛知県尾張県民事務所知多県民センター環境保全課課長）、加古茂正（区長会会長）、近藤由美子（大府市地域婦人団体連絡協議会会長）、加藤 汪（大府市環境美化推進員）、鬼丸トモ子（あいち知多農業協同組合女性部大府地域部長）、間瀬計行（大府商工会議所事務局長）、小椋和美（大府市生活排水クリーン推進員）、坂野好子（バンノ自動車商会代表）、伊藤彰近（株式会社豊田自動織機大府工場 安全・総務部 環境室室長）相木 徹（オオブユニティ株式会社代表取締役）、上西啓三（公募委員）

### <委員欠席者> 1名

安藤久之（大府緑化推進研究会事務局長）

### <事務局等出席者> 7名

市民協働部長（木學）、環境課長（久野）、環境衛生係長（鈴木）、環境保全係長（小原）、環境保全係（土屋）、環境衛生係（中尾）

### <傍聴者> なし

### <次第>

1. あいさつ
2. 議題
  - (1) 平成 29 年度大府市一般廃棄物処理実施計画（案）について
3. 報告事項
  - (1) 第 2 次生活排水対策推進計画の中間年度における進捗状況の評価について
  - (2) 大府市災害廃棄物処理計画の策定について
  - (3) ゴールドラッシュ 2020 運動について
4. その他

### <議事概要>

※14 名中、13 名の出席であり、大府市環境審議会に関する規則第 5 条 2 項を満たしているため、本日の審議会は成立する。

### 1. あいさつ

千頭会長あいさつ

## 2. 議題

### (1) 平成 29 年度大府市一般廃棄物処理実施計画（案）について（資料）

※資料に基づき、事務局（中尾）が説明。

- ・ごみ処理実施計画について、排出抑制は平成 29 年度に 865 g/人・日、将来目標の平成 32 年度には 850 g/人・日まで削減する。再生利用は平成 29 年度に 31.2%、将来目標の平成 32 年度には 35.0%へ引き上げる。
- ・ごみ排出量の平成 29 年度目標は、家庭系 702 g/人・日、事業系 163 g/人・日、家庭系資源化量 7,242 t、事業系資源化量 1,610 t とする。実績値と目標値が乖離しているが、32 年度目標を達成するため、29 年度の目標値を設定している。31 年度に供用開始予定の東部知多処理施設やバイオガス発電施設への家庭系生ごみの分別収集を検討し、資源化率の実績値を上げる。
- ・処理計画の変更点としては、平成 28 年 12 月から新たに市役所でも使用済小型電子機器等の回収を開始。特定家庭用機器では、指定取引場所が名古屋市港区から東海市に移ったため、自分で持ち込みが可能になる。
- ・平成 28 年 11 月に大府市災害廃棄物処理計画を策定し、住民・事業所・行政の連携により、処理を実施。
- ・平成 29 年度から市内の保育園、小・中学校から排出される食品残渣の生ごみをバイオガス発電施設で処理する。
- ・ごみ収集・処理にかかる経費の適正化について検討を実施。
- ・ゴールドラッシュ 2020 運動を推進し、使用済小型電子機器等に含まれる金・銀・銅を回収し、「都市鉱山メダル運動」を P R する。

【委員】ゴールドラッシュ 2020 運動で、携帯電話やパソコンをリサイクルするためのデータの消去は無料でやっているのか。

【委員】リネットジャパンの場合、自分でダウンロードをしてデータを消去する場合は無料だが、配送後に消去を依頼する場合は有料としている。携帯電話については、現状では物理的に壊すようにしているが、今後ゴールドラッシュ 2020 運動で、全ての携帯電話を物理的に壊してからリサイクルすると費用もかかるため、処理方法は、今後の検討事項である。現状では、自分でデータを消去するか、そのまま回収に出すかのどちらかになる。

【委員】データ消去など処理の方法が明確になると協力してくれる方が増えると思う。

【事務局】データ消去に関しては、産業文化まつりなどのイベントの際に持ってきていただくとその場で壊すため、安心できる。

【委員】使用済小型電子機器からオリンピックのメダルが作成できるのは夢があって良いが、どのくらい回収されたか見えるようにすると市民の意欲が湧くと思う。例えば市役所で集まった小型家電で作成できるメダルの量などが表示されると、参加しやすくなると思う。

【事務局】大府市でどのくらい回収されたかわかるようにはしたい。例えば、作成されるメダルの競技種目がわかる回収箱や、合宿地・大学・出身地など選手ゆかりの土地に設置した箱にはその選手の競技種目のメダルが作成されるようにしたい。3 月 10 日に環境大臣から全国の自治体に「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」

運動への協力の通知が届き、今後全国の自治体と協力して進めたい。

【委員】大府市災害廃棄物処理計画について一般市民にとって内容がわかるポスターなどを作成する予定はあるのか。

【事務局】大府市災害廃棄物処理計画は集められた廃棄物の処理方法等が記載された計画で、行政と廃棄物を処理する事業所の内容になり、直接市民が関わる内容はあまりない。市民の搬出場所等については別の計画にも記載されている。

【委員】1ページのごみの排出量は年度ごとに減っており、2ページのごみの総排出量は年度ごとに増えているが、理由は何か。

【会長】1ページは1人当たりの量になるが、2ページでは大府市全体の量になる。

【事務局】1人当たりのごみの量は減っているが、市内の人口が増えているため、ごみの総量は増えている。

【委員】資源にできるものは資源として分別するよう啓発しているため、ごみが減っているのか。

【事務局】ごみを出さないことと、可能な限り資源にするよう啓発をしている。

【事務局】2ページの上段の表をみていただくと、資源回収もごみとして計算しているため、資源を出しても、ごみの量は増える。例えば包装などを減らして、資源を含めたごみを減らしてほしい

【会長】大手スーパーや新聞社などが資源の回収をしているため、大府市だけでなく他の自治体でも行政が集める資源回収量が減っている。事業所が回収しているならば、必ずしも全て行政が資源回収をする必要はない。従来通りの指標では目標に達成できないため、検討した方がよいと思う。

【委員】地域婦人団体連絡協議会でアスパを作っており、米糠から作って3週間寝かし、天日干しをしてから袋詰めをしている。公民館などで配布しているため、皆さんも使ってほしい。

### 3. 報告事項

#### (1) 第2次生活排水対策推進計画の中間年度における進捗状況の評価について

※資料に基づき、事務局（小原）が説明。

・生活排水処理率（市全域） 実績 93.0%（平成27年度目標 89.1%）達成

（境川流域）実績 93.3%（平成27年度目標 89.3%）達成

COD発生負荷量削減率（市全域） 実績 67.0%（平成32年度目標 63.5%）達成

（境川流域）実績 67.5%（平成32年度目標 64.5%）達成

環境基準の適合率 達成地点 19箇所、環境基準適合率 90.5% 達成

（平成27年度目標達成地点数 16箇所、環境基準適合率 71.0%）

【会長】生活排水処理率の内容について、補足の説明をお願いしたい。

【事務局】生活排水処理をできていない施設が、くみ取り便槽と単独処理浄化槽であり、生活排水処理をできている施設が、下水道、合併処理浄化槽及び農業集落排水施設である。

## **(2) 大府市災害廃棄物処理計画の策定について**

第1回大府市環境審議会で説明した大府市災害廃棄物処理計画（案）について、10月12日から11月11日でパブリックコメントを実施し、意見等はなかったため、11月14日に策定した。大府市災害廃棄物処理計画は大府市のホームページに掲載。

## **(3) ゴールドラッシュ 2020 運動について**

昨年10月に至学館大学、リネットジャパンと産学官で連携し、都市鉱山メダル連携促進委員会を発足した。使用済小型家電に含まれる金・銀・銅で東京オリンピック・パラリンピックのメダルをつくるためにゴールドラッシュ 2020 運動を実施しており、2月に東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会に採択された。大府市では11月に開催される大府シティ健康マラソン大会で使用するメダルつくるために小型家電を集めている。4月からはみんなのメダルプロジェクトとして、全国の自治体と協力して実施する。皆でつくったメダルということで、選手の励みなれぽと思う。

## **4. その他**

来年度の環境審議会はごみ減量化の案件で審議していただく必要があるため、開催回数が毎年2回であるが、来年度については5回予定している。

以上